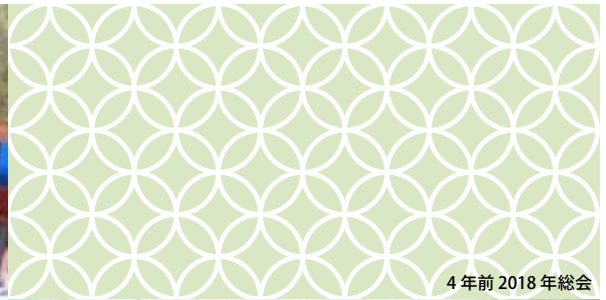


東京鷹桜同窓会報



3年前 2019年総会



4年前 2018年総会



**2023年度(10月21日)
総会・懇親会実施!
全員集まれ!!**

ご挨拶

会長 工藤 美知尋 (S41年卒)



4年にわたって猛威を振るった新型コロナも、ようやく終息しつつあります。今年2023年10月21日(土)には、4年ぶりに東京鷹桜同窓会の総会・懇親会を開催いたしますので、会員の皆様におかれましては、再開

の同窓会・懇親会に、お誘い合わせの上、是非ご参加下さいますよう、心よりお願い申し上げます。今年の総会には、S41卒の我々にとっては大変お世話になった、荒井勲夫先生(S38～S48、長井高校ご勤務)を恩師来賓としてお招きしております。その他、青柳敦子校長先生、米沢有為会会長の平山英三様、鷹桜同窓会会長の小関勝司様、その他の方々をお招きしておりますので、大いに楽しみにしていただきたいと思っております。私は今から4年前の2014年に東京の同窓会会長に就任しました。またそれ以前には、

病のため止む無く降板した齋藤四郎事務局長に代わって、2年ほど事務局長代行を務めました。このようなことから同窓会の運営については、他の人よりも精通しておりますが、何せ76歳の高齢になりましたし、この際後進に道を譲ることによって、同窓会の新陳代謝と新風を吹かせて頂くことを大いに期待して、退くこととにしました。幸いにもこの度新会長にご就任される今憲行君(S43卒)は、長年学年幹事長として、会務の取りまとめに尽力され人望の厚い方ですので、従来以上に本会が盛り上がるものと期待しております。新会長には、旧来のような、総会・懇親会で人を集め、単に懇親・飲酒するだけではなく、長井・白鷹地区はじめ、米沢市をはじめとした置賜地方全域の文化の振興を図るためには、どうしたらよいかといった広い視野をもって会務にあたっていただけましたら、幸いに存じます。母校の後輩たちが今いかなるものを欲し、いかなる課題に直面しているかをヴィヴィットに把握し、どのような形でサポート出来るかを、率直に話し合う必要があると思っています。現在高校の先生方の「働き方改革」が真剣に模索している時でもありますので、部活動や課外活動において、同窓会の果たす役割は、非常に

目次

- P2 ご挨拶 青柳 敦子
- P3 御来賓の先生 荒井 勲夫先生
新会長のご挨拶 今 憲行
- P4 ご挨拶 小関 勝司
2023年東京鷹桜同窓会総会・懇親会式次第
- P5 2023年東京鷹桜同窓会・前期学年幹事会
事務局長として 八木 倫明(やぎりんめい)
- P6 2022年度決算報告、2023年度予算活動報告

- P7 残り何年?の未知の世界に入ってみれば 佐藤 元保
米沢有為会 学生寮へのお誘い 平山 英三
- P8 公益社団法人米沢有為会 学生寮「東京興譲館」案内
- P10 書評『米沢海軍 その人脈と消長』工藤 美知尋著
- P11 イーグル会ゴルフコンペ 遠藤 文郎
酒匂純孝先生と手塚弘明君を偲ぶ会開催
- P12 同窓生の横顔-小田仁二郎氏(S4卒、1910～79)
編集後記

大きいものがあると思っています。同窓会としては、後輩たちに対して、物心両面にわたる支援を、可能な限りしなければならぬと考えています。なお今年6月25日、米沢市の「伝国の杜」で開催されました「米沢有為会」総会におきまして、米沢有為会東京支部長に選出されました。これは前任者の興譲館高校OBの菅野憲行君（S41卒）が病のため急遽辞任されたために起こったことでありました。いうまでもなく「米沢有為会」は130年の歴史を持つ、置賜全域の文化の向上を図らんとする広域財団法人です。ここでは東京と仙台の二つの学生寮を運営するとともに、奨学金の支給や、置賜の各高校生の「小論文コンテスト」や、その他数多くの文化講演会などを実地している団体です。その運営資金は全て正会員の会費と寄付金によって賄われております。上記二つの学生寮には、長井高校出身者が各2名の計4名お世話になっています。鷹桜同窓会の皆様方におかれましては、公益財団法人「米沢有為会」の活動に対して、ご支援ご鞭撻いただきますよう、心よりお願い申し上げます次第です。

ご挨拶

長井高校 校長 青柳 敦子



日頃より東京鷹桜同窓会の皆様には、遠く離れた母校に想いを寄せていただき、多大なるご支援をいただいておりますこと、心から御礼申し上げます。

5月8日に新型コロナウイルスが「5類」に移行し、様々な活動がコロナ前に戻ってきております。そういった中、6月17日の午前中に創立103周年記念式典が挙行され、午後には4年振りとなる鷹桜同窓会総会・つどいの会が盛大に行われました。約150名の同窓生の皆様一堂に会し、昔話に花を咲かせながら楽しく語らっておられる姿が印象的でした。そして10月21日には東京鷹桜同窓会総会にお招きいただいております。皆様と顔を合わせながら100周年記念事業等の御礼を申し上げますことができます。校長着任3年目にして、ようやく念願が叶い、大変嬉しく存じます。

学校の様子を少し紹介いたします。

今年の新入生は167名、2年次169名、3年次生169名、計505名で今年度をスタートしております。定員が1学年200名ですので、残念ながら4年連続で定員を満たしておりません。志願者増が喫緊の課題です。

次に、部活動についてです。今年度は保護者の入場制限も解除になり、声を出しての応援も可能になりました。6月に行われた県高校総体では、陸上競技、弓道女子個人、水泳男子メドレーリレー等で入賞し、東北大会への出場を決めました。また文化部では、鹿児島で開催される「全国高校総合文化祭」に写真部から2名、美術部から1名の作品が選ばれております。このように、生徒は高次元での文武両道を目指し、活躍しております。

そして、進路状況についてです。平成30年度に「探究コース」「一般コース」が創設され、今年で6年目となりました。これまでに1期生から3期生まで卒業生を送り出しましたが、コロナ禍の中、最後まで志を高く持ち、難関大学や地元大学への合格など、素晴らしい進路実績を達成しております。

これからも、創立以来連綿と受け継がれてきた「萬物我に備はる」の教育精神の下、生徒一人ひとりを伸ばす、一人ひとりが伸びるよう、教職員一同、心を合わせて教育活動に邁進してまいります。引き続き本校の最大の応援団として皆様からお力添えいただきますようお願い申し上げます。

の教育精神です。東京同窓会の皆様から寄贈いただいた石碑に刻まれている「いのちを守り、幸せを創り出し、愛を実らせるため」に、語り伝えられてきたこの智慧を学びとり、地域や地球に貢献する人材を育成することが本校の使命だと捉えております。



御来賓の先生 荒井勲夫先生

(S38年～48年までの10年間、長井高校でご勤務、英語担当、野球部・演劇部の顧問を務める、現在山形市在住)の近況を語る



小生80歳を期に、断捨離を始め、賀状終い、親戚等との贈答終い等で、様々なしがらみから解放され、小さな世界で、気ままな生活を送っています。

昨今は、抜いても抜いても出てくる家の裏手のヒルガオと格闘しており、既に3回抜きましたが、生命力の強い花なので、恐らく2,3回苦闘せねばと覚悟しております。

ヒルガオの前は、家の周囲に生えてくるドクダミとの戦いでした。地下茎で繁殖する花なので、地上部を抜いただけでは絶やすことが出来ず、可能な限り地下茎も抜こうと試みるのですが、人力をあざ笑うように地下茎は残り、また芽を出します。除草剤が全く効かないので、来年も同じことを繰り返すしかない、半ば諦めの境地です。

小さな庭に、折々楽しめるように少々花木を植えており、今はクチナシが満開で、その香りと姿

を楽しんでおります。猫の額程の狭さですが、雑草に占領されるのが癪なので、熱射病にならないように気を付けながら草取りに励んでいます。

今年はウクライナへの連帯の意味を込めて、ヒマワリを2,3本植えました。間もなく花が咲きそうです。

綿ごみを目にするのが嫌なので、月、水、金は、ベッドの下まで掃除機かけをし、火、木、土は車で5,6分のスーパーへ、50数年来の相棒と、食材等の買い出しに出かけるのが1週間のルーティンで、案外規則正しい生活を送っています。

今年も高校野球の季節が巡ってきました。気にかけていた長井高校は初戦で姿を消してしまい、楽しみが一つ減ってしまいました。

半世紀以上前、「早苗が原」の極端に右翼の狭いグラウンドで、甲子園を目指して暗くなるまで、汗にまみれて白球を追いかけ続けていたあなた方と、共に過ごした眩しいような青春の日々が脳裏に浮かんできます。

皆様と再会できることを、今から心待ちにしております。

(2023年7月10日記)

新会長のご挨拶

今 憲行 (S43年卒)

母校の長井高校は2020年に100周年を迎え、東京鷹桜同窓会は40年目を迎えました。しかしこの年2月にコロナ感染が確認され、丸3年を経過した今日でも完全な収束には至っておりません。この間、同窓会活動はさまざまな面で影響を受けざるを得ませんでした。ようやく7月に4年振りに対面で役員会、学年幹事会が開催され、旧交を温めながら今後の活動について話し合われました。

その結果この度、私が工藤会長の後継として内定しました。不安と共に身の引き締まる思い



でおります。

この場をお借りして自己紹介をしたいと思います。1965年に高校に入学し在学中の大きな思い出は「吹奏楽部」を創部したことです。(詳しくは東京鷹桜同窓会会報29号に掲載。HPよりご覧になれます。)卒業後2008年に同期の紹介で東京鷹桜同窓会の総会懇親会に初参加し、2011年から役員として総務担当を経て2016より学年幹事長を拝命し現在に至っております。またゴルフ同好会の「イーグル会」には初回から直近開催の17回まで連続参加しております。

同窓会の役員として感じたことは、各分野で活躍された、あるいは活躍されている大勢の会員の皆様がおられることです。同窓会の活動を通して、ジャンルの異なる多様な方との出会いがあり、豊富な人生経験に接し、多くを学び、広い視野を得ることができたと思います。一方で約1000名の会員の年齢構成をみると平成卒

業が30名、昭和60年から63年卒が26名と若い層が少ないという課題が見受けられます。

歴史と伝統のある同窓会を盛り上げるためには、基盤として母校及び同窓会本部と信頼感を持ち連携を深めることが大切だと思います。そのうえでアナログとデジタルをバランスよく活用して、コミュニケーションの輪を拡大し、会

員の「声かけ」により入会を促し、学年幹事の充実により背骨を強くしていければと思います。最後になりますが、大変未熟ですが「元気に、明るく、楽しく」を心がけ運営に取り組みたいと思います。会員の皆様の暖かいご支援ご協力をお願い致します。

ご挨拶

鷹桜同窓会 会長 小関 勝司 (S50年卒)



工藤会長様はじめ東京鷹桜同窓会の皆様には、日頃より長井高等学校鷹桜同窓会にご支援ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

今年度は、東京鷹桜同窓会も一堂に会しての総会を開催する予定と伺っておりますが、6月に4年ぶりとなる鷹桜同窓会総会並びに「第47回同窓生のつどい」を開催いたしました。コロナ禍後の再スタートである為、出席者を以前の6割程度に絞って準備を進め、総勢147名の皆様にご出席いただきました。東京鷹桜同窓会からも佐藤副会長様にご出席いただき、盛会のうちに終えることができました。誠にありがとうございました。

昭和48年5月15日創立記念日に「第1回同窓

生のつどい」が行われましたが、当初は落成した新校舎を同窓生の皆様に見て戴こうという趣旨で始められたもので、第1回のつどいは、長井中学校及び長井高等女学校の第1回から第10回卒業の皆様が招待されたとの事です。形は少しずつ変わってきていますが、新型コロナの影響で3年連続中止となったものの、「同窓生のつどい」は50年の間連続と続いてまいりました。先輩の皆様のご努力に敬意を表したいと思います。

企業や組織運営を織物(布)に例えて色々表現されますが、私たちは時代と世代を超えて、同窓生という縦の糸を太く長く紡ぎ、同級生という横の糸と編んでいくことで、同窓会という織物に仕上がっていくものと思います。縦の糸の中心は同窓会支部であることは言うまでも無い事ですが、東京鷹桜同窓会も太い縦の糸として未来に繋いでいただく様お願い申し上げます。

最後に、3年前の創立100周年記念事業につきましては、ほぼ予定通り完了することができました。勝見前会長時代の事業ではありますが、改めて同窓会を代表して御礼申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2023年東京鷹桜同窓会総会・懇親会式次第

日時: 2023年10月21日(土)

場所: レストラン「アラスカ」(日本プレスセンター)
東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル10階

会費: 8,000円(例年通り)

スケジュール

1) 総会 11:00～11:25

- ① 開会の言葉
- ② 会長挨拶
- ③ 議長選出

- ④ 議事
- ⑤ 閉会の言葉

2) 全員集合写真

3) 懇親会 12:00～14:30

- ① 開会の言葉
- ② 来賓挨拶
- ③ 来賓恩師紹介
- ④ 乾杯
- ⑤ 懇談
- ⑥ 校歌斉唱
- ⑦ エール
- ⑧ 閉会の言葉

2023年東京鷹桜同窓会 前期学年幹事会

令和5年度 東京鷹桜同窓会前期学年幹事会	
7月1日(土)	
14:15~16:00	
於:TKP神田ビジネスセンター	
進行 今年幹事長	
議長 今	
会 次 第	
1. 開会の言葉・佐藤 副会長	
2. 会長挨拶・・・工藤会長	
3. 議事	
(I) 令和5年の総会・懇親会の開催に関する事について	
(1) 総会に上程する議案について	
① 令和4年度の決算について・・・八木事務局長	
② 令和5年度の予算について・・・八木事務局長	
③ 役員を選任について・・・工藤会長	
④ 総会・懇親会の内容、役割分担、その他運営について	・・・今
(2) その他	
(II) その他	
(1) 連絡事項(会報の内容について)・・・工藤会長	
(2) その他	
(3)	
4. 1分間近況報告(自己紹介)	
5. 閉会の言葉・・・藤野 副会長	
6. 集合写真撮影	
※諸連絡・懇親会の場所・会費について	



事務局長として

八木 倫明(やぎりんめい) (S51年卒)



2019年から事務局長をつとめる八木倫明と申します。2020年からコロナ時代に入り、このかん総会は一度だけでした。あと数年つとめたら世代交代したいと思っておりますが、ボクよりも若い世代が同窓会になかなか

か顔を出しません。

事務局長の仕事はお金の出し入れと管理、そして予算書、決算書をつくることです。今、60歳

前後の人で、やってもいいという方が名乗りを上げてくださると嬉しい。

《使命としての音楽》

コロナ時代になり、音楽という仕事は「不要不急」に分類されました。これは「なくてもよい」仕事という意味だと思いました。なくても良い仕事に価値はあるのか？ おそらくないだろう。価値のない仕事をつづける意味はあるのか？ と哲学して得た結論は、音楽は仕事ではなく「生き方」だということです。生き方とは命の使い方であり、使命とも呼ばれます。今は不要でも百年後に必要とされる音楽をのこす使命ではないでしょうか。

シューベルトも宮沢賢治も金子みすゞも生前はその作品が認められませんでした。百年後の人が彼らの音楽や童話や詩を必要としました。だから百年後にのこる音楽や歌をのこせば、生きた意味があると思ったのです。収入が途絶えたときに、長井高校の先輩方からもご支援のお志がとどき、奇跡的に生き伸びました。そのご支援金を元手にCDアルバム『世界が終わっても音楽と愛が残る』を創りました。ケーナ、チェロ、パラグアイ・ハープ、ギターによる四重奏と歌のアルバムです。このメンバーにより7月には、北海道公演(札幌～遠軽)、8月には福島市～白鷹町～山形市のツアーも行ないました。いずれも、お客様からの大喝采を受けて戻りました。

どのジャンルにも収まらない古くて新しい「地球音楽」は、まだほとんど認知されていませんが、今来てくださるお客様は、百年後の未来人的感性をお持ちの方々だと、心から感謝しています。ぜひ一度やぎりんトリオ、またはやぎりんカルテートの演奏会にお越し下さい。



2022年度 決算報告、役員

[2023年10月20日迄]

一般会計			
2022.6.1-2023.5.31 単位：円			
収入の部	2022決算	2022予算	差異
年会費	345,000	400,000	▲55,000
懇親会費	0	0	0
寄付金	247,500	320,000	▲72,500
本部助成金	13,000	13,000	0
会報広告収入	0	0	0
前期繰越金	1,433,503	1,433,503	0
小計	2,039,003	2,166,503	▲114,500

一般会計			
2022.6.1-2023.5.31 単位：円			
支出の部	2022決算	2022予算	差異
総会費	0	0	0
懇親会費	0	0	0
会議費	51,426	20,000	▲31,426
名簿管理費	0	5,000	5,000
通信費	890	890	0
広報費	407,519	410,000	2,481
支払手数料	34,284	38,000	3,716
消耗品費	0	0	0
本部派遣費	25,000	0	▲25,000
次期繰越金	1,519,884	1,692,613	99,381
小計	2,039,003	2,166,503	▲114,500

特別会計			
2022.6.1-2023.5.31 単位：円			
収入の部	2022決算	2022予算	差異
雑収入(利子)	28	25	▲3
前期繰越金	2,289,364	2,289,364	0
小計	2,289,392	2,289,389	▲3
支出の部	2022決算	2022予算	差異
支出金	0	0	0
次期繰越	2,289,392	2,289,364	▲28
年度末残高	3,809,276		

2023年度 予算・活動報告

[2022年10月21日から]

一般会計			
2023.6.1-2024.5.31 単位：円			
収入の部	前年度決算	2023予算	差異
年会費	345,000	370,000	25,000
懇親会費	0	540,000	540,000
寄付金	247,500	250,000	2,500
本部助成金	13,000	13,000	0
会報広告収入	0	0	0
前期繰越金	1,433,503	1,519,884	86,381
小計	2,039,003	2,692,884	653,881

一般会計			
2023.6.1-2024.5.31 単位：円			
支出の部	前年度決算	2023予算	差異
総会費	0	300,000	▲300,000
懇親会費	0	500,000	▲500,000
会議費	41,426	60,000	▲18,574
名簿管理費	0	5,000	▲5,000
通信費	520	2,000	▲1,480
広報費	409,037	420,000	▲10,963
支払手数料	38,284	35,000	▲3,284
消耗品費	0	3,000	▲3,000
本部派遣費	25,000	75,000	▲50,000
次期繰越金	1,433,503	1,292,884	140,619
小計	1,943,770	2,692,884	▲749,114

特別会計			
2023.6.1-2024.5.31 単位：円			
収入の部	前年度決算	2023予算	差異
雑収入(利子)	28	25	▲3
前期繰越金	2,289,364	2,289,392	28
小計	2,289,392	2,289,417	25
支出の部	前年度決算	2023予算	差異
支出金	0	0	0
次期繰越費	2,289,392	2,289,417	25

2023年度役員

会長	工藤美知尋 (S41 卒)
事務局長	八木 倫明 (S51 卒)
副会長	佐藤 元保 (S37 卒) 川崎美和子 (S39 卒)
	小口 英吉 (S41 卒) 藤野由美子 (S43 卒)
学年幹事長	今 憲行 (S43 卒)
副事務局長	大野 治雄 (S46 卒) 佐藤 俊之 (S60 卒)
学年副幹事長	井澤 小一 (S45 卒)
監査	鈴木 仁 (S38 卒) 木村 清次 (S44 卒)
相談役	守谷 次郎 (S38 卒) 斎藤 四郎 (S38 卒)

2024年度新役員

※2023年10月21日の総会にて承認。

2023年6月1日～2024年11月迄の活動計画

- 2023年05月06日(土) 第1回役員会 11時30分～ (池袋)
- 2023年06月17日(金) 令和5年度 鷹桜同窓会総会 12時30分～ (長井) 佐藤副会長出席
- 2023年07月01日(土) 第2回役員会 13時15分～ ・前期学年幹事会 14時15分～ (神田ビジネスセンター7階)
- 2023年10月21日(土) 2020年総会・懇親会 11時～ 『レストランアラスカ』

残り何年？の未知の世界に入ってみれば

佐藤 元保 (S37年卒)

昔、思えば遠くに来たもんだ、という歌があったが、今の心境としては、思えばこんなに年取ったもんだ、がピッタリである。今年、80歳になるのである。(まだ成っていないが。)



私より年長の方々に、なにを今さらと笑われてしまうが、高齢初心者？の実感なのだから仕方がない。

これまでは、若年層並に、毎年毎年、年が改まったなあ、今年は〇〇しなけりゃ、とか今年は〇〇があるから嫌だなあ、来年に延ばそうか、という風に、自分のエンディング(リミット)を全く意識せずに暮らして来れた。

正に、「来れた」のである。

エンディングを意識せずに済むと言うことは若さの特権であったのだ。

先日の新聞の投書欄に、「91歳の母を看取った。もっと長生きして欲しかったが本人はもう十分、と言っていた。母は幸せな一生だったと思う。」とあるのを見た。

え、91歳？、あと10年ちょっとやん(何故か関西弁・・・)！と慌てる自分がそこにいた。

ここで、すかさず自省に入る自分。

「そろそろモノを集めるのは止めないと」とか、「あれの処分はやっぱりオークションか・・・(面倒くさいな)」とか、「娘に、突然死ぬ前に通帳の情報を書き残せ、と言われていたなあ」、とか、「遺言書の準備もあるなあ・・・」と、しばらくは厳粛に現世との別れを意識する。

でも、「91歳でもう十分？、ワシの場合、それはないな・・・」と少し気を取り戻しながらも、一体残り10年なら何が出来て、何が出来ないのだろう、と考え始めるが、そこで、あ、これまで生きてきて、こんな計算？したことないな、と気付く。

実の父が89歳で世を去ったことがこれまでの指標、となっていたのだが、勝手にそこを超えようとしているのは脇に置こう。

しかして、お医者さんのように永年の仕事を持たない自分は、リタイア後に携わった仕事は長くて2年、短くて数ヶ月だったことや、たま

の家の補修等大工仕事や、山形白鷹の墓参や、ごく稀な原稿書きでは数日以下で完了、となっていたことから、「10年？意外と長いんやん」となり、安堵と共に短時間でリミット無意識の世界に戻りかけるのである。

だが現実について身罷るかは不明ながらも、取り敢えずはリミットを毎年？10年程度とし、遣り残しのないよう、残りを数えながら人生を続けていきたいものだ。勿論、楽しみながら、である。

これまで出来なかったことは、これからも出来ない、という悪魔の呪いと戦いつつ。

米沢有為会 学生寮へのお誘い

公益社団法人米沢有為会会長 平山 英三
(S40年米沢興譲館高校卒)



公益社団法人米沢有為会は、明治22年に置賜から上京した学生6名がはじめた親睦団体です。明治41年には社団法人となり、奨学金制度と学生育英寮を運営する育英団体となりました。一昨年、創立130周年を迎えましたが、現在は、育英事業(①奨学金貸与、②学生育英寮)のほかに、③民法学者我妻榮先生の生家「我妻榮記念館」の運営管理、④地域の教育、文化、産業振興のため、生徒の表彰や小論文コンテスト、教育・文化・産業の振興の功労者の表彰などの活動を行っています。

育英寮は東京都調布市と仙台市青葉区にあります。上杉藩藩校の名前を取った「東京興譲館、仙台興譲館」という名称から「米沢興譲館高校出身者の寮」という誤解もありますが、置賜三市五町の在住者と出身者は誰でも申し込みができます。

私の学生時代は東京、仙台とも大部屋でしたが入寮希望者が多く、なかなか入れませんでした。現在は一人一室で設備も整っていますから学生生活をエンジョイできると思います。是非一度見学に来てください。お待ちしております。

1. 応募資格

東京及び東京近郊の大学、短大、専門学校及び大学院の在学生、又は入学予定者（男子のみ）であって、以下の条件のいずれかを満たす者

- (1) 置賜地域3市5町の在住者又は出身者の子弟
- (2) 有為会会員1名以上の推薦を受けた者

2. 募集人員

5名程度（個室）

3. 提出書類

- (1) 東京興譲館入寮願書（所定用紙に写真貼付）
願書の入手方法：公益社団法人米沢有為会ホームページからダウンロードする。
- (2) 高校の学業等に関する調査書又は卒業または卒業見込を証明する書類
- (3) 大学在学者については上記書類の他に大学学生証のコピー

4. 書類提出（郵送）先（不明な点の問い合わせ先）

〒182-0004 東京都調布市入間町 1-36

東京興譲館長 宛 TEL/FAX 03-3309-3302

郵送が間に合わない場合は FAX による申込も受け付けます。ただし、面接時に原本をお持ちください。

5. 面接及び応募締切の日程

	面接日・時間	応募締切・備考
第1回 通常	2024年1月7日（日） 午前10時開始	2024年1月5日（金）必着 ※2024年度入学許可取得者（推薦入学許可等）及び在学生を対象とします
第2回 予約 通常	2024年3月1日（金） 午後1時開始	2024年2月29日（木）必着 ※予約募集と通常募集を対象とします ※取り消しの場合要連絡
第3回 通常	2024年3月8日（金） 午前10時開始	2024年3月7日（木）必着 ※合格発表以前に応募できます ※取り消しの場合要連絡
第4回 通常	2024年3月21日（木） 午後1時開始	2024年3月19日（火）必着 ※合格発表以前に応募できます ※取り消しの場合要連絡

※2023年度の日程を参考にして作成しましたが、2024年については、9月末に決定します。

（注）止むを得ない場合は、事前連絡の上、当日に書類を持参してください。



6. 面接会場

第1回：東京興譲館

第2回：米沢市 置賜総合文化センター 会議室

〒992-0012 米沢市金池 3-1-14

TEL：0238-21-6111

第3回：東京興譲館

7. 寮費等月額

（食事代、水道代、光熱費等全て含む金額）

朝夕2食付き ただし日曜、祝日を除く

65,000円（2024年度）

*在寮生の人数によって寮費が異なる場合があります。

8. 入寮費

38,000円（初年度のみ）

9. 問い合わせ先

- 〒182-0004

東京都調布市入間町 1-36 東京興譲館 宛

TEL：03-3309-3302

- 〒992-8501

山形県米沢市金池 5-2-25 米沢市役所

（秘書広報課）内 米沢有為会 米沢支部 宛

TEL：0238-22-5111（内線 2011）

10. その他

- 入寮希望者は事前に寮を見学しておくことが望ましい。
- 入寮許可者に対する入寮説明会
面接終了後に実施する予定です。
（応募者多数のときは変更あります。）
- 入寮の決定後、本人および保護者は公益社団法人米沢有為会の会員として入会していただきます。

※※※ ホームページをぜひご覧ください ※※※

公益社団法人米沢有為会ホームページ

<http://www.yonezawa-yuukai.org/>

※東京興譲館の地図は、米沢有為会ホームページ
をご参照ください。

(参考) 東京興譲館寮へのアクセス

- ・小田急線成城学園前駅経由
小田急バス 西口広場 1 番乗場
調布駅南口行 入間町 1 丁目下車
粕江駅北口行
- ・京王線仙川駅経由
小田急バス 仙川駅入口バス停 成城学園前駅行
入間町 1 丁目下車

【東京鷹桜同窓会のお問合せ】

- ・工藤美知尋迄 携帯電話：080-4116-4201
E-mail：kudo429@gmail.com
- ・これまでの長井高校出身者は 74 名で、この
学生寮にお世話になっています。

【現在の長井高校卒業生の入寮状況】

- ★ 近藤清正 君 学習院大学法学部
(有為会の奨学生)
- ★ 金田 凌 君 杏林大学医学部
- ★ 伊藤翔太 君 一橋大学社会学部



山 形 新 報

総 会

平山会長を再任

米沢有為会

置賜地域出身の学生を対象にした青英事業などを行っている米沢有為会(本部東京・平山英三会長)の定時総会が25日、米沢市の伝馬の杜で開かれ、2023年度事業計画を決めた。任期満了に伴う役員改選で平山会長を再任した。

23年度は▽奨学金の貸与▽東京で仙台の学生寮の管理を継

続するほか、米沢市出身の民法学者我妻栄の没後50年などを記念した各種事業を手がける。ほかの役員改選では、理事に工藤美知尋(東京鷹桜同窓会会長)と鈴木修治(宮城県結核予防会健康相談所所長兼名譽所長)の2氏、監事に近野久左門(浜田広介記念館理事長)と松嶋祐樹(米沢有為会東京支部監事)の2氏を新任した。

総会に続き表彰式を行い、各分野で顕著な功績があった個人をたたえた。同日は同会米沢支部(支部長・中山勝米沢市長)も総会を開いた。被表彰者は次の通り。(敬称略、学校・学年は昨年度)

▽教育文化功労者 梅津幸保(置賜民俗学大会顧問)▽産業功労者 増村力(前米沢商工会議所会頭)▽特別顕彰・優秀賞(スポーツ) 紺野稜真(九里学園高3年)▽奨励賞(スポーツ) 清水広大(米沢六中3年) 遠藤なな(九里学園高2年) 遠藤悠(同3年)▽同(文化) 田

村理音(米沢市北部小5年) 吉田佳奈(南陽市津山小3年)
(高橋健太)

2023年(令和5年)6月26日(月曜日)掲載

書評『米沢海軍 その人脈と消長』 工藤美知尋著

米沢だけでなく、日本において、まさにこのような本がいま待たれていたと言っても過言ではない。なぜなら戦後、日本は戦前の軍国主義の反省からか、あるいはGHQによる民主主義思想教育が徹底的に効果を発揮したせいか、戦前の軍事や軍人に関する歴史に国民の関心や興味が非常に薄いと云わざるを得ないからである。先の大戦で戦地で戦った元軍人、元軍属たち、あるいは戦没者遺族、外地からの引揚者も高齢化したり、多くはこの世を去ってしまった。まさに生き証人が数少なくなってしまった。

欧米の植民地主義に対抗した明治新政府の政治、外交を考える上で、軍事や軍人に関する歴史を忘れてはならないと思う。なぜなら人間の歴史は繰り返されるからである。現にいま、21世紀にロシアによってウクライナが侵略を受けている。ナチスのポーランドやヨーロッパへの軍事侵攻を想起させるものだ。

したがって、軍事史から得られる教訓は、非常に大きなものがあるはずだ。第一次世界大戦の主舞台となったヨーロッパでは、英国を始め、各地に戦争博物館があり、市民は気軽に足を運んでいる。そこではどのような武器で、どのように戦争が戦われ、どれくらいの戦死者、戦傷者が出たかなどを知ることができる。あの当時は外交と戦争は密接不可分な時代だったのである。しかし、日本にはいま東京の靖国神社、鹿児島島の知覧特攻平和会館など一部があるものの、戦争を体系的、網羅的に知ることができる博物館というものが無い。日本国民は、かつての戦争を身近で知る機会が極めて少ないと言えよう。米沢出身の海軍大将山下源太郎の出生地には石柱が一本建立されているが、それは良い方で、ほとんどはどこで生まれたのかさえわからないのが現状である。

さて、本の帯封に、「なぜ海のない山形県南部の米沢から多くの海軍将官が輩出されたのか」と書かれてある。これは誰も抱く代表的な疑問である。

著者の工藤美知尋氏は、昭和22年山形県長井市に生まれ、日本大学法学部を卒業、同大学大学院で修士過程を修了後、ウィーン大学に留学し、さらに東海大学大学院で博士課程を修了した政治学博士である。これまで『日本海軍と太平洋戦争』、『日ソ中立条約の研究』、『海軍良識派の支柱山梨勝之進』、『日本海軍の歴史がよくわかる本』、『東条英機暗殺計画』、『終戦の軍師 高木惣吉海軍少将伝』などを著し、日本の外交史、軍事の歴史に精通している研究者である。

その工藤氏がこの本を書くきっかけになったのは、令和元年6月、米沢有為会東京支部主催の創立130周年大会で、同会名誉会長の上杉邦憲氏による「上杉茂憲公の沖縄県令時代」という講演を聞いたことがきっかけだった。その講演に触発されて、幕末維新期の米沢藩の歴史を調べるうちに、「米沢海軍」について描いてみたいと思い立ち、本書の執筆がスタートした。なぜ、米沢から多くの海軍士官が輩出したのかが工藤氏のテーマになった。長井市出身だから、同じ米沢盆地にある米沢市に対しての土地勘があるというのも幸いだっただろう。

工藤氏はその理由として、幕末、米沢藩は佐幕派に属していたからだとする。確かに、米沢藩は奥羽越列藩同盟の一員で、戊辰戦争では新政府軍と戦った側にあった。だから米沢藩出身者が明治新政府に居場所がなかったことを理由に挙げる。薩長土肥に代表される明治新政府は、藩閥政治でそれ以外の出身者が政治の中心に上っていくのは難しい状況にあった。

しかし、軍隊は別だった。藩閥による差別が比較的に薄い海軍士官になることで、身を立てる米沢出身者が多くいたのである。そのベースにあるのが、上杉鷹山が再興した藩校興讓館の存在があり、学間に熱心だった背景がある。また明治4年には、日本で3番目に設立された洋学舎という洋学を教える学校が米沢に設立され、チャールズ・ヘンリー・ダラスら英国人のお雇い外国人教師が招かれ、欧米の先進的な学問を若い学生に教授したという土壌も忘れてはならないだろう。

米沢海軍の生みの親というべき人物が宮島誠一郎である。第1章では、宮島誠一郎の『戊辰日記』を紐解きながら、黎明期の米沢海軍の人脈を紹介していく。宮島誠一郎と勝海舟の出会い、決定的である。第2章では、大正期の「米沢海軍」、第3章は、ロンドン海軍軍縮会議と「米沢海軍」、第4章は、日独伊三国軍事同盟に反対する「奥羽海軍」良識派トリオ、第5章では、太平洋戦争の中でも悲劇の軍人として南雲忠一大将をピックアップしている。南雲はミッドウェー海戦で負け、虎の子の空母、優秀な戦闘機乗りを多く失った際の現地指揮官で、サイパン島で悲劇の玉砕に至る。工藤氏はその南雲の生涯を追っている。また昭和初期から太平洋戦争時の米沢海軍の散華者21人を紹介している。第6章では、「米沢海軍」の品格を世界に伝えた工藤俊作中佐を紹介している。工藤俊作に関しては、惠隆之介氏がその著『敵兵を救助せよ』で、初めて工藤俊作の存在を世に知らしめた。

巻末には、米沢出身海軍兵学校出身士官99人ほか、海軍機関学校出身士官19名、海軍主計官9名、海軍軍医官・薬剤官9名の名簿が掲載されている。まさにこの一冊で、幕末維新からの米沢藩の動きや米沢海軍に関わった人物とその経歴などが全てがわかるという本であり、改めて先人の偉大な足跡を辿る格好の書と言えよう。工藤氏に敬意を表し、その労作多としたい。

(書評 米沢日報デジタル/成澤礼夫)

著者 工藤美知尋(くどうみちひろ)

出版社 芙蓉書房出版

ISBN978-4-8295-0840-4 C0021

価格 2,400円+税

発行日 2022年7月26日

(2022年7月25日17:40配信)



イーグル会ゴルフコンペ

遠藤 文郎 (S49 年卒)

第17回イーグル会ゴルフコンペが4月27日に埼玉県上尾市のリバーサイドフェニックスゴルフクラブで開催されました。

今回は初参加でしたが、天候にも恵まれて諸先輩の方々と総勢10名のコンペで和気藹々と大変楽しい一日を過ごすことが出来ました。

何より3年余の新型コロナウイルス禍でコンペの開催も難しい状況が続いておりましたので、皆様は久しぶりのラウンドを満喫されておりました。

今回優勝は筆者遠藤(新ペリア式でのハンディに恵まれました)、準優勝は大滝二三夫さん、第三位は奥山敏広さんとの結果でした。

私事ですが、ここ3年ほど体

調に不安があり安静やリハビリを兼ねた生活を強いられておりましたので、心地良い光と風を満喫しながらプレイすることが出来、あらためて健康のありがたみを感じた次第です。

イーグル会への参加は初めてでしたが、ラウンドや表彰式でも世代を超えて親睦を深められたことが何よりでした。

今後も健康を維持して参加させて頂きたいと存じます。



*筆者(遠藤さん)は後列左から4人目

酒匂純孝先生と手塚弘明君を偲ぶ会開催

2023年4月15日(金)、正午から14時半まで、麴町にあるフランスレストランにおいて、昨年お亡くなりになられた恩師酒匂純孝先生と一昨年他界された手塚弘明(S41卒)の両氏を偲ぶ会が開催された。

あいにく当日は土砂降りの雨にたたられたにもかかわらず、恩師や手塚君を慕う同級生ら18名が集まり、生前の両氏を偲んだ。なおこの偲ぶ会には、手塚君の夫人である朱美様と、手塚君と長井小・中学時代の同級生だった早川誠一君も参加された。さらに愛知県豊田市からは、佐藤(渡部)正子さんも駆けつけてくれた。

酒匂先生は、われわれがS38年4月、長井高校に入学した時、初めてクラス担任をされた。体育の先生だったため、クラスを受け持たれたのが極めて遅かったという事情もあったようである。

当時酒匂先生は30歳前後であったが、その情熱を我々にストレートにぶつけて来られた。

このため、酒匂先生を慕う生徒が大勢出たが、反対に「絶対に嫌い!」という生徒も存在した。S38年入学の男子生徒の大半は、なにがしかの理由で、先生から往復ビンタを見舞われたであろう。

今だったら各方面から「暴力教師」の烙印が押されると思うが、そう思わなかったのは、ひとえに生徒が純朴であったからである。何と言っても、山形県西置賜郡に存在する高校である。「先生の教えは絶対である」という考え方が、この地方の隅々まで厳然と存在していた。

私が酒匂先生を尊敬する理由は、先生が独力で、当時幅が極端に狭く、雑草が茫々を生い茂るグラウンドを、モッコとフルイを使って、きれいに整地されたからである。

体育の授業の前半30分は、男女の生徒とともに、草むしりに当たった。酒匂先生以外の教員は光景を、横目でチラと見ていたが、草むしりに手を貸そうとは絶対にしなかった。

「無言実行」を自ら実践して見せる酒匂先生の姿を見て、私はリーダーのあるべき姿を学んだつもりである。(工藤記)

同窓生の横顔

小田仁二郎氏 (S4年卒、1910～79)

「鷹桜同窓会名簿」のS4卒の「物故者」の欄に小田仁二郎氏の名前が載っている。この人物は、小説家瀬戸内寂聴の師ともいわれている方である。小田の出身地は南陽市宮内である。



2021年11月に亡くなった寂聴は、終生小田仁二郎から大きな影響を受け、「小田のただ一人の文学の弟子」を自称した。

小田は戦後文学の旗手として先駆的な前衛文学を書き、芥川賞や直木賞候補となった。

愛を貫き、家庭を捨てた一人の女の生きざまを赤裸々に描いた寂聴の小説は、この小田との生活が土台となっている。

著者 工藤美知尋 著

新装版 海軍良識派の研究
(光人社NF文庫)



編集後記

(編集長 工藤美知尋 記)

今年の夏は近年まれにみる猛暑となりました。東京では7月から8月14日まで、ほとんど雨が降らず、連日「真夏日」が続きました。そんな中で会報の編集作業を行いました。したがって、思わぬ誤植があったりするかもしれませんが、その際は何卒ご寛容をお願い申し上げます。

4年ぶりで開催する10月21日の同窓会総会・懇親会には、皆様お誘い合わせの上、多数ご来場下さいますよう、心よりお待ち申し上げます。

《 学年幹事の皆さん 》

(2023年6月1日現在)

卒年	名	前	卒年	名	前
昭28高	新田	正	昭43高	鈴木	勉
昭29高	鰐淵	康彦	昭44高	完戸	康男
昭30高	片倉	新治	昭44高	沼沢	幸雄
昭31南	小形	正明	昭44高	丸川	元
昭31南	青木	清	昭44高	浅野	陽一
昭32南	横山	健次郎	昭45高	中田	啓子
昭33南	羽田	聰子	昭45高	横山	和彦
昭33南	齋藤	淑子	昭45高	黒澤	充宏
昭36南	飯沢	武	昭46高	樋口	利美
昭36南	末吉	暁子	昭46高	安部	俊彦
昭37南	荒生	保男	昭46高	桑島	寛之
昭37南	大滝	二三夫	昭46高	竹田	英也
昭37北	石井	宏子	昭47高	竹田	茂
昭37北	大島	陽子	昭47高	中萩	真知
昭38南	影山	勝範	昭48高	鈴木	俊彦
昭38南	中本	恵美子	昭49高	遠藤	剛
昭38南	小関	武	昭49高	那須	優則
昭39南	新野	昭彦	昭51高	北村	成子
昭39南	丸川	満	昭52高	阿曾	亮子
昭40高	黒沢	輝夫	昭53高	高橋	直樹
昭41高	前司	憲行	昭57高	高橋	好則
昭41高	菊地	淳二	昭57高	佐野	勝彦
昭41高	滝沢	久	昭57高	沼澤	秀雄
昭41高	丸山	安子	昭58高	鈴木	祐子
昭41高	今井	直枝	昭59高	菅野	和彦
昭41高	五十嵐	正樹	昭63高	青木	昌智
昭42高	宮崎	正義	平04高	井上	博司
昭42高	平田	節雄	平11高	手塚	多美子
昭42高	佐藤	さち子			

東京鷹桜同窓会事務局

八木 倫明

〒120-0001 東京都足立区大谷田2-3-35

ボナハイツ中川 3-1011

TEL : 080-5379-4929

E-mail : yagirin88@gmail.com

爽秋の候、皆様いかがお過ごしでしょうか
ご健勝をお祈り申し上げます



役員・学年幹事会一同